

カンロン[®] 粒剤 2.5

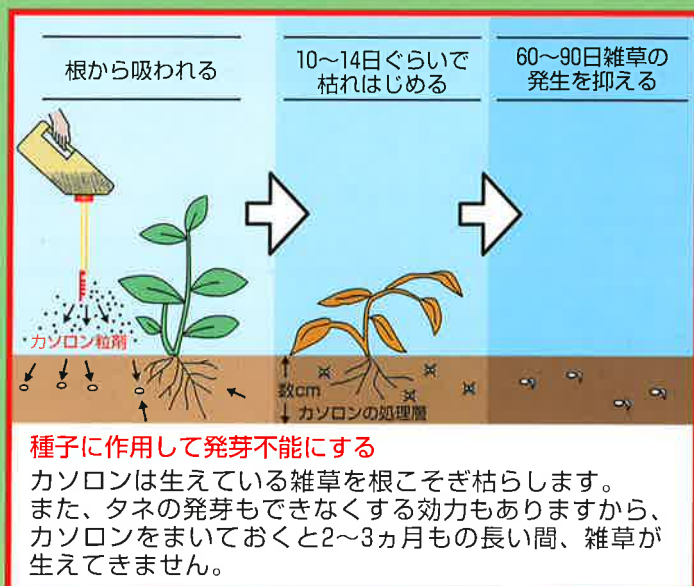


新ラベルデザイン

カンロンの特長

- 普通物なので、取扱いやすい。
- 長期間雑草を抑えます。
- 粒剤ですから、使用が簡単です。
- ギシギシ・ヨモギ・スギナ・ヤブガラシなど、難防除雑草にもよく効きます。

■カンロンの効き方



■良い効果を出すポイント

- ①雑草が小さいときに散布してください。



- ②まきむらのないように均一に散布してください。



- ③雨上がりなど土が湿っているときに散布してください。



アグロ カネショウ株式会社

<http://www.agrokanesho.co.jp/>

カンロン粒剤の特長

- ①生えている雑草を枯らすだけでなく、土中の雑草種子の発生も抑えるので長期間効果が持続します。
- ②一年生雑草のほか、ヨモギ、ギンギン、タンポポ、ヤブガラシなど根の残る広葉多年生雑草にも良く効きます。また茎葉散布除草剤で残りやすいスギナやツユクサにも優れた効果を発揮します。
- ③低温期（晩秋～早春）に使用すれば春～夏の使用に比べ少ない薬量で済み経済的です。また樹木類にも安全性が高く、作業も楽に行えます。

適用雑草と使用方法

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の 使用回数	使用方法	DBNを 含む農薬の 総使用回数
いぐさ	—	スズメノテッポウ ミズハコベ 水田一年生雑草 マツバイ	1月～4月 (雑草発生始期)	壤土～埴土 (減水深0.5cm /日以下)	3～6kg/10a	2回 以内	湛水散布	2回 以内
しちとうい		水田一年生雑草 マツバイ ミズハコベ	移植後7～10日	腐植に富む 埴土～埴土 (減水深0.5cm /日以下)	3～4kg/10a			
日本芝		一年生雑草 多年生広葉雑草	秋期雑草発生 前～発生始期	壤土～埴土	8～10kg/10a (1m ² 当り 8～10g)		全面土壌 散布	3回 以内
水 稲 (刈取跡)	水 稲 刈取跡	マツバイ	水 稲 刈 取 後 7～10日まで		5～6kg/10a	1回		1回
樹 木 等	公園 庭園 堤とう 駐車場 道路 運動場 宅地 のり面 等	一年生雑草	雑草の発生前 ～発生始期	—	17～20kg/10a (1m ² 当り 17～20g)	3回 以内	植栽地を 除く樹木 等の周辺 地に散布	3回 以内
		多年生広葉雑草 スギナ			20～40kg/10a (1m ² 当り 20～40g)			

H28年4月末現在

⚠ 効果・薬害等の注意 ⚠

- 使用量に合わせ秤量し、使いきってください。
- 雑草が大きくなると効果が劣るので、発生始めに使用してください。
- 本剤はイネ科雑草に対しては効果が劣るので、イネ科雑草が優占する場所での使用はさけてください。
- 土壌が乾燥していると効果が不十分となるので、雨上がり等の土が湿った状態で使用することが望ましいです。
- 本剤はまきむらによって効果が不均一になったり薬害の部分的発生が懸念されるので、特に均一散布に留意してください。
- 多年生広葉雑草に対しては所定量を雑草の株元及びその周辺に散布してください。
- 本剤は処理後地表から薬剤が気化し、気象条件などによって滞留した場合、下枝の葉や果実に薬害を生ずるおそれがあるので、風通しの悪い凹地など空気の滞留しやすい場所での使用はさけてください。
- いぐさ・しちとういに使用する場合、特に以下のことに注意してください。
 - ①土壌は埴土～埴土とし、かつ1日の減水深 0.5cm以下の漏水の少ない腐植含量の多いところで使用してください。
 - ②砂壌土や減水深の大きい水田では使用しないでください。
 - ③本剤は湛水状態で散布し、散布後少なくとも3～4日間はそのまま湛水状態を保ち、田面を露出させたり水を切らしたりしないように注意し、また、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。
 - ④既発生した雑草には効果が劣るので、所定範囲内の多めの量を使用してください。また、雑草の発生がだらだらとなる場合は、所定範囲内の多めの量を使用するか、概ね1ヶ月以上の間隔をあけて2回散布してください。
- 水稲（刈取跡）に使用する場合、特に以下のことに注意してください。
 - ①本剤散布後の圃場は翌春までそのまましておくのが最も効果的で秋耕はしないでください。
 - ②翌春、水稲以外の作物を栽培する予定のある場合は使用しないでください。
- 次のような場所では薬害のおそれがあるので使用をさけてください。
 - ①極端な砂質土壌。
 - ②そ菜（かぼちゃ、うり類など）、花き（菊など）、ホップなどの栽培圃に隣接している場所及びその栽培予定地。
 - ③新植後3年末満又は間作予定の果樹圃。
 - ④ハウス、温室などの施設内及びその周辺並びにそれらの設置予定地。
 - ⑤移植後間もない樹木の周辺。

- ⑥本剤に影響を受けやすい樹種（マツ類、モクセイ類、モミ類、ニワウメ、ヒノキ、コウヤマキ、イブジク）等の樹冠下。
- 公園・堤とう等で使用する場合は、特に以下のことに注意してください。
 - ①激しい降雨の予想される場合は使用をさけてください。
 - ②本剤の飛散あるいは流出によって有用植物に薬害が生ずることのないよう十分注意して散布してください。
 - ③水源池等に本剤が飛散・流入しないように十分注意してください。
 - ④関係者以外は作業現場に近づかせないでください。小児、通行人、家畜などに留意してください。散布後（最小限その当日）も散布区域に縄囲や立て札をたて立ち入らせないでください。
- 散布器具、容器の洗浄水は河川等に流さず、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

⚠ 安全使用上の注意 ⚠

- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 使用の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするのと同時に衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 公園、堤とう等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
- 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管してください。

魚毒性…水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養殖池等周辺での使用はさけてください。

保管…密封し、直射日光をさけ、種子、苗、肥料、他の農薬などと隔離し、食品と区別して、冷凍・乾燥した所。

●使用前にラベルをよく読む ●ラベルの記載以外には使用しない ●小児の手の届く所には置かない